

一人一人の人権意識を育てよう

はじめに

生徒の多くが黒須小学校・高倉小学校からの入学となっている黒須中学校は、開校44周年を迎えました。本校の学校教育目標は【自立と絆】となっており、学校行事・委員会活動・部活動などで、子どもたちの主体的な参加による活動が充実し、お互いを認め合う仲間づくりと一人一人の自己肯定感を高めるよう、学校全体で取り組んでいます。

私たち成人教育部は、人権教育推進事業の指定PTAとして「一人一人の人権意識を育てよう」をテーマにしました。同じ年頃の思春期の子どもを持つ保護者同士、子どもたちの健やかな成長と豊かな人間形成を願い、地域の人々との交流を通して家庭の役割や家族のあり方について考え、家庭教育の一層の充実を図ることを目的として、学びの場を考えました。

学習計画

回	実施日	主催	講座名	講師	形式
1	7月 5日	本校PTA	開講式・「子どもと親のかかわり」	黒須中学校校長 前畑 哲也先生	講話
2	9月26日	本校PTA	「盲導犬との出会い」	入間市視覚障害者 福祉協会会員 福井 恵子氏	講話
3	12月8日	講座参加	入間市東金子公民館人権啓発講座 「同和問題の解決を目指して」	埼玉県県民生活部 人権・男女共同 参画課 人権・同和問題 啓発講師 吉岡 秀樹氏	講話

第1回講座・開講式 7月5日（水）

参加者：10名

演題 「子どもと親のかかわり」

講師 黒須中学校 校長 前畑 哲也 先生

【目的】

- ・親が子どもの教育に対する責任を自覚し、子どもの人権について学ぶ。
- ・子どもとより良いコミュニケーションをとるために、親の役割を考える。

【主な学習内容】

- ・子どもの生活習慣の確立と維持について
- ・心も身体も大人へ向かう思春期について
- ・しつけや家庭でのルールについて
- ・様々な体験の必要性について
- ・子どもの個性や夢について



【感想】

- ・校長先生と同世代ということもあり、校長先生の生い立ちのスライドやお話がとても楽しかったです。（サケとカモの話、楽しかったです。）
- ・いつも心掛けていた事ではありましたが、校長先生のお話を聞いて改めて気付くこともあり、とても勉強になりました。
- ・一人娘が中学生になり、子どもとの接し方が分からなくなっていて、今の接し方で良いのか不安だったため、参加させていただきました。お話を聞いて安心する部分と取り組んでいかなければならない部分が見えてきたと思いました。
- ・思春期まっただ中の子どもとどう向き合っていけば良いのか？と思っているところでした。家庭でのかかわりが大事とのこと、今一度改めたいと思いました。
- ・生活習慣・スマホの使い方について、再度話し合いを行いたいと思いました。
- ・一日のリズムの基本である朝食について、親として気を付けるとともに家族一緒に食事の時間を大切にしようと思いました。

【学んだこと】

- ・突然子どもが反抗的な態度をとっても、真正面からぶつかってお互いに傷つけないように「思春期は子どもの成長に必要な時期だ」と捉え、子どもと向き合い見守ることが大切だということ。
- ・「正しいしつけ」は子どもへの大切な贈り物。間違っただけの行いは毅然とした態度で叱り、良いところは褒めて、子どもが「愛されている」と実感できるコミュニケーションをとること。
- ・過保護・過干渉にならないようサポートし、他の子との比較に捉われないこと。

第2回講座 9月26日(火)

参加者：13名

演題 「盲導犬との出会い」

講師 入間市視覚障害者福祉協会会員 講師 福井 恵子 氏

【目的】

- ・地域で盲導犬と暮らしている方から話を聞くことで、盲導犬との出会いや訓練等
の大変さを知る。
- ・障がい者についての理解を深め、温かい心で共に生きることの大切さを学ぶ。

【主な学習内容】

- ・目が不自由になった経緯や盲導犬との出会い
- ・訓練中の変なことやコミュニケーションを取ることの難しさ
- ・盲導犬としての役割を終え、引退した盲導犬の生き方

【感想】

- ・盲導犬（ピーちゃん）がとても可愛く、ユーザーさんとの絆を強く感じられました。
- ・福井さんがとても明るくて、全盲ときいてびっくりしました。
- ・今回のお話で盲導犬への考えやあり方が良く分かりました。
- ・視覚障害による困難性及び盲導犬と一緒に生きること、盲導犬としての役割を果たす意味を理解することができました。
- ・子育てや人と関わる上でも大切なことを学びました。もう少し参加者がいれば良いのと思いました。
- ・普段から盲導犬を連れた福井さんを見かけていました。同じ校区で、本日はお会いできて嬉しく思いました。

【学んだこと】

- ・視覚障がい者とのコミュニケーションは、音で伝えることが大切ということを知り、色々なコミュニケーションの取り方について考えるきっかけとなったこと。
- ・盲導犬になれるのは全体の3～4割で、ユーザーに対して盲導犬が足りないこと
- ・盲導犬を見かけたら盲導犬の集中力を欠くことのないようそっと見守り、状況に応じてユーザーに声を掛けることが大切であること。



第3回講座 12月8日(金)

参加者：2名

演題 「同和問題の解決を目指して」

講師 埼玉県県民生活部 人権・男女共同参画課
人権・同和問題啓発講師 吉岡 秀樹 氏

【目的】

- ・ 人権の基本を学び、今もまだ残る同和問題の解決を目指す。
- ・ お互いの人権を尊重し、共に生きる社会を実現する。

【主な学習内容】

- ・ 人権とはなにか、人権課題にはどんなものがあるか。
- ・ 身近な同和問題についての実例、認知度、歴史的背景
- ・ 同和問題の解決に向けた取り組み

【感想】

- ・ 人権と同和問題、どちらも他人事ではなく一人一人が自分の問題として受けとめ自分に置き換えて考えることが大事だと思いました。
- ・ 知らず知らずのうちに人権や差別につながる発言や行動をしていないか、改めて考え直せる良い機会になりました。
- ・ 命の尊さについて考えることは人権を大切にする一歩になる、相手の立場に立って考えてみる、なかなか考えさせられる講話でした。
- ・ 今でもなお、社会的に差別があるのはとても悲しいことだと思いました。
- ・ インターネットやSNSなどの普及により、誹謗中傷や名誉棄損などの書込みが増え、誤った情報が瞬時に不特定多数の人に広まってしまうことに改めて恐怖を感じました。

【学んだこと】

- ・ 人権の基本は「命」であり、「命の問題」として向き合うことが必要であること。
- ・ 誤った知識や思い込みは偏見を生んでしまうので、正しい知識を身につけること。
- ・ 自分にも関わりのある問題として考えること。
- ・ 予断や偏見を持たずに人と接すること。

